

令和5年12月 大槌町議会定例会

行政報告

令和5年12月8日

大 槌 町

本日、ここに令和5年12月大槌町議会定例会の開会にあたり、9月定例会以降における町政運営について、御報告を申し上げます。

1 はじめに

はじめに、「条例、規則の公布手続の不備」及び「図書館の指定管理者制度導入に係る不備」について、これまでの経緯や再発防止のための取組、今後の対応等を町民の皆様にご説明するため、大槌町文化交流センター（おしゃっち）において、11月23日に住民説明会を開催しました。午前・午後の2回開催し、午前は16人、午後は18人、計34人に参加いただきました。

説明会では、参加者の皆様から「今後このような問題を起こさないように対策を講じてほしい。」、「職員のスキルアップを望む。」、「今回の説明会の内容を広報で町民に知らせてほしい。」等の御意見をいただきました。

条例、規則の公布手続の不備等に係る事務事業については、法令に基づいた公共の福祉に適合する事業であることから、このまま事務を進めさせていただきたいと存じますので、多くの町民の皆様にご理解をいただけるよう、住民説明会の概要等について広報おおつち1月号や、ホームページに掲載する予定としております。

町としては、これまでの事実を真摯に受け止め、町民に信頼される行政運営のために、再発防止策として、職員研修の充実による人材の育成、課長補佐・係長制の導入による組織的なチェック体制の強化及び人員体制の強化に取り

組んでまいります。

(熊の出没状況と対策)

次に、熊の出没状況と対策について申し上げます。

本年度のクマの出没状況は、100件を超える出没報告が寄せられており、2件の人身被害をはじめ、多数の物件被害が発生しております。例年9月以降のクマの出没は減少する傾向にありましたが、本年度については、クマの主要な食べ物となるブナやどんぐりが大凶作であることで食べ物を探し回っているためか、11月に入っても引き続き出没報告が寄せられている状況です。

これまで緩衝帯の整備や放任果樹の刈払いなどの防除策のほか、遠隔監視装置付きの罠を活用した有害捕獲により12頭を捕獲しております。

冬期間に入る12月以降においても引き続き、対策を講じてまいります。

(上下水道料金の改定)

次に、上下水道料金の改定について申し上げます。

11月7日、上下水道料金等審議会から水道料金及び下水道使用料の改定計画について答申をいただきました。

答申内容については、水道料金は現行料金に対して平均25%増、下水道使用料は現行使用料に対して平均45%増となる改定が必要であると試算され、料金体系及び使用料体系の変更については、水道料金体系に若干の変更はあり

ますが、下水道使用料体系は現状を維持とする答申がなされました。

また、改定時期はできるだけ早いタイミングで改定することが望ましい状況であり、来年4月が妥当であるとしつつも、昨今の景気動向等を踏まえ段階的な料金改定についても検討するよう答申されております。

このことから、答申内容を尊重し、上下水道料金については、段階的な改定を検討してまいります。

(ふるさと大槌会総会・大槌町ネットワーク交流会)

次に、「ふるさと大槌会総会」及び「大槌町ネットワーク交流会」について申し上げます。

11月17日、東京池袋のレストランを会場として、「令和5年度第35回ふるさと大槌会総会」と「第2回大槌町ネットワーク交流会」を開催いたしました。

今回は、町とふるさと大槌会との共同開催という形をとり、ふるさと大槌会の会員の皆様、これまで復興支援や産業振興面でサポートをいただいていた応援職員派遣元自治体や企業・団体、元復興支援員、ボランティアの皆様など総勢164名の方々に御参加いただき、交流を図りました。第一部では、大槌の地域おこし酒「源水」の開発秘話について講演をいただき、第二部では、源水と大槌サーモン、大槌鹿、大槌ホタテ、かねざわクレソンなど地元の食材をふんだんに使ったメニューを提供し、町の特産品のPRに努めました。

また、ステージでは、大槌町虎舞協議会による虎舞演舞、そして、三陸おお

つちPR大使の「みち乃く兄弟」に花を添えていただき、おおいに盛り上がりました。

翌日には、復興事業に20名もの応援職員を派遣していただいた川越市を訪問し、市内3か所で大槌町虎舞協議会による「感謝の舞」を披露しました。

今後、まちづくり、産業振興を進めていく上で、様々な業界の幅広いネットワークが必要になってきます。これまで培ってきたつながりをより強固なものとするため、来年度以降もこの取組を継続していきたいと考えております。

以下、各分野の取組について御報告申し上げます。

2 各分野の取組について

【産業・観光】

(農林水産業)

民間事業者を中心に取り組んでいる魚類養殖事業においては、「岩手大槌サーモン」の水揚量が、昨年実績を大きく上回る672トンとなり、10月28日には「桃畑学園サーモン」の消費拡大を兼ねたイベント「モモちゃん、元気イースね！フェス」が開催され、町内外から2,000名の方に御来場いただきました。

また、「岩手ジビエ大槌鹿」においても、「岩手うんめえ〜もん！！グランプリ2023」でMOMIJI株式会社の「大槌鹿の寒こうじ漬け」が最優秀賞を受賞するなど、更なる大槌ブランド向上が図られております。

海業振興においては、本年度、協議会を2回開催し年度内の計画策定に向け、

関係機関との協議を進めているところであります。計画におきましては、産業振興だけではなく、環境保全、教育、観光のフィールドとしての拡充も必要であることから、次年度以降の推進に向け、準備を進めてまいります。

森林環境譲与税事業におきましても、本年度、町が委託を受けた民有林約11haの間伐施業を実施しております。

今後におきましても、森林も含めた大槌の豊かな自然環境の適正な管理保全に務め、各種取組を行ってまいります。

(担い手不足の課題解決の取組)

次に、雇用に関して申し上げます。

農林水産業、商工業等の地域産業の担い手不足の課題に対する取組といたしましては、特定地域づくり事業協同組合「おおつち百年之業協同組合」が11月から派遣事業を開始しており、畜産事業、鳥獣被害対策事業、農業と地域の仕事を組み合わせた通年雇用として2名の若者が、これからの地域の担い手として勤務しております。引き続き、地域産業の維持と担い手の確保に向けた取組を進めてまいります。

(経済活動支援)

次に、商工観光における経済活動支援について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行されてから半年が経過

し、経済活動に回復の兆しが見えてきたところではありますが、エネルギー価格及び物価の高騰は事業者の経営を圧迫しています。

そこで、昨年度に引き続き、町内全事業者を対象に「エネルギー価格高騰対策支援金」、運輸事業者を対象に「運行支援緊急対策補助金」の交付を行います。

観光面においては来年1月から3月まで実施される大型観光キャンペーン「しあわせな♡いわて冬旅キャンペーン」に合わせ、町内宿泊事業者を対象にオンライン宿泊割引の助成事業を予定しており、三陸の旅行業にとって閑散期となる冬の期間にも誘客できるよう努めてまいります。

また、本年10月8日、海づくり記念公園において、「第25回おおつち産業まつり」及び「三陸コネクトフェスティバル」が同時開催されました。同フェスティバルでは、大槌町オリジナルアニメ「大槌カイ物語」が上映されたほか、メインキャラクターの有名声優のトークショーには多くのファンが町外から駆け付け、熱気を帯びたイベントとなりました。産業まつりと合わせたトータルの来場者は約6,000名となり、町の秋の味覚と歌、ステージを楽しんでいただく機会となりました。

【健康・福祉】

(子育て環境の充実)

次に、子育て環境の充実について申し上げます。

子育てに関する経済的、環境的な不安を解消するため、保育所等を利用せず、

在宅で育児をしている世帯を対象に、児童一人当たり月額1万円を給付する「在宅育児支援金事業」を新たに創設し、11月1日から受付を開始しているところであります。

なお、県が示す基準では、給付対象を第二子以降としておりますが、当町ではさらに対象を拡充し、第一子から給付対象としております。

(高齢者支援の推進)

次に、高齢者支援の推進について申し上げます。

「大槌町敬老の集い」につきましては、これまで町内全域を対象に一堂に会する方式で開催しておりました。

しかしながら、会場までの移動が困難である等の理由により、参加率が30%前後と低い状況となっていたことから、本年度から気軽に参加できるよう地域単位での開催へ移行したところであります。

地域開催にあたっては、会を主催する自治会・団体等に対して町から5万円を助成することとし、本年度は9団体が敬老会事業を実施しております。

今後につきましては、更に実施団体が増加するよう各種団体等からの御意見等を踏まえながら、引き続き事業を推進してまいります。

【教育・文化】

(大槌高校魅力化の取組)

次に、大槌高校魅力化の取組について申し上げます。

大槌高校魅力化事業では、「これからの大槌高校を考える会」と題し、11月22日、第16回魅力化構想会議を開催いたしました。地域住民と教員・高校生等120名が一堂に会し、魅力化事業に関する経過を報告し、来年度から設置される地域探究科について理解を深めました。会の後半では、「地域・教員・生徒ワークショップ」も行われ、地域協働学習のアップデート、更なる魅力化について地域とともに考える機会となりました。

今後も地域協働学習を推進し、更なる魅力化に向け大槌高校と引き続き協働で取り組んでまいります。

(けやき共育)

次に、本年度より取り組んでいる多様な特性を持った児童生徒に対する専門的な支援を行う大槌型特別支援教育事業「けやき共育」について申し上げます。

11月21日、開催いたしました総合教育会議には、文部科学省初等中等教育企画課の筒井諒太郎課長補佐をはじめ、有識者の先生方、教育委員の皆様に御参加いただき、本年度の「けやき共育」の推進状況と今後の推進計画について説明し、有識者の先生方から、これだけきめ細やかな支援体制を構築している自治体はほとんどないという評価をいただきました。

さらに、筒井課長補佐からは、首長部局と教育委員会が一体となった町の取組が他自治体のモデルになると高い評価をいただきました。

今後も、大槌町の子どもたちを誰一人取り残さない「けやき共育」の支援体制の構築に、学校・家庭・地域・行政が一体となり全力で取り組んでまいります。

(社会教育振興及びスポーツ・文化について)

次に、社会教育振興及びスポーツ・文化について申し上げます。

運動の習慣化へのきっかけづくりを目的として、10月8日、ニュースポーツ体験会を開催し、そして、翌日の「スポーツの日」にあたる9日にかけて町営サッカー場、町営多目的グラウンドを初めて無料開放いたしました。当日は家族や友人と一緒に楽しみながら体を動かす様子を伺うことができ、今後につきましても、このような機会を提供していくことで、運動の習慣化や体調管理、生きがいつくりにつなげていくよう、引き続き、生涯スポーツ振興に努めてまいります。

本年度、第50回の節目を迎えた「大槌町民文化祭」が11月3日から5日にかけての3日間、大槌町城山公園体育館、大槌町文化交流センター（おしゃっち）を会場にて開催し、延べ約1,400人の皆様に御来場いただきました。「文化の日」にあたる3日には第50回を記念し、三陸おおつちPR大使の「アンダーパス・ミカ」さん、「みち乃く兄弟」さん、「はなわ」さん、「佐藤ひろ美」さんによるミニコンサートやトークイベントが行われ、プロの歌唱力やリズムカルなサウンド、全国的にも有名になった楽曲の演奏や歌声を披露していただき、

節目となる開催に花を添えていただきました。

町民憲章のひとつに掲げる「香り高い郷土の文化をそだてましょう」の精神のもと、町民の文化芸術活動がより広がりを見せられるよう、引き続き町芸術文化協会との連携を深めてまいります。

また、11月17日、岩手県における教育振興運動が掲げる全県共通課題である、ネットやスマホなどの情報モラルをテーマに専門講師を招き、児童、生徒、保護者、教員を対象に吉里吉里学園小学部を会場に家庭教育講座を開催しました。当日は、4年生から9年生までの児童、生徒に加え、教職員、保護者の皆さんなど総勢100名を超える参加があり、情報メディアに対する関心の高さを伺うことが出来ました。引き続き、教育振興運動の推進に努めてまいります。

(震災伝承の取組)

次に、震災伝承の取組について申し上げます。

町では、二度と悲惨な被害に見舞われないために津波の記憶を正確に残し、これを学び、将来の町民に継承していくことを目的に、本年度は、(仮称)鎮魂の森整備と震災伝承コンテンツの作成を進めております。

はじめに、町全体の鎮魂の場となる(仮称)鎮魂の森整備については、本年7月29日に須賀町地区の事業地内にて、第一期土木工事の安全祈願祭及び起工式が執り行われ、現在は、主に盛土工が進められております。

また、本議会の補正予算にトイレ休憩棟新築工事費を上程しており、引き続

き、令和7年7月の完成に向けて、鋭意進めてまいります。

次に、震災伝承コンテンツの作成については、町の震災津波伝承の指針と大槌町教育の指針等を踏まえ、これまでに収集してきた町独自の震災の記録や教訓、復興の歩みなどを教育・研修コンテンツとして、学校の教育現場などにおいて活用していただくための「教員向けテキスト」の作成に引き続き取り組んでまいります。

【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

11月5日の「世界津波の日」に合わせて、11月2日から11日にかけて「大槌町防災訓練週間」と位置づけて、様々な訓練を実施しました。

主な訓練としましては、11月2日に、防災行政無線63箇所の子局すべてで緊急地震速報が放送されたことを町内全域で確認しました。

11月3日には、大槌消防署、釜石警察署、自衛隊、東北電力ネットワーク、三菱自動車、日本赤十字社、町内建設会社等から御協力をいただき、防災時に役立つ車などの展示を行う「防災フェスタ」を開催し、293人の方に御来場いただきました。

11月11日には、令和5年度大槌町津波避難訓練を実施しました。今回の訓練には、初めて大槌学園と吉里吉里学園の両学園が同日に参加し、児童生徒の

登校時間に合わせて訓練を実施しました。

また、本年度策定した津波時における車避難のルールの検証も兼ねて、車での避難についても訓練を行い、ペット同行で車での避難訓練を行って下さった方などの参加がありました。

避難訓練への参加者の総数は1,280名で、昨年より233名増加しております。

来年度以降も継続して訓練を実施し、より多くの方に参加をいただけるように取り組み、地域の防災意識の向上に努めてまいります。

【将来を見据えた持続可能なまちづくり】

(地域活動の支援)

次に、地域活動の支援について申し上げます。

10月1日、2つの地区で、地域住民による運動会が開催されました。開催50回目の節目となる吉里吉里地区の運動会は、地域住民に加え、地域の震災復興に携わった町外の方々を招待し、約350人の参加のもと行われました。

また、震災後2回目となった安渡地区の運動会には、地域住民や地元企業の外国人技能実習生など約150人が参加しました。

どちらの地区においても、地域色を活かしたオリジナル競技が多く盛り込まれ、子どもから高齢者までが一致団結して競い合い、賑わいを見せたところがあります。

運動会は健康増進を図る目的もさることながら、多世代交流の機会として、

地域住民同士の絆を深め、地域の維持・活性化に向けた機運の醸成が図られるものであると認識しております。

町では今後も、地域住民が主体となった活動を継続的に支援していくとともに、地域コミュニティの活性化に向けた取組を引き続き進めてまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、条例改正、補正予算案等を御提案申し上げます。

何卒よろしく御審議の上、議員各位並びに町民の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。